

MetaMoJi 活用授業 学習指導案 (コミュニケーション英語 I)

- 1 日 時 令和3年2月9日(火) 第2限 (10:00~11:05)
 2 指導者 市橋 憲和
 3 指導クラス 1年3、4組(26名)(分割合同クラス)
 4 場 所 1年3組教室
 5 学 級 観

全体的におとなしいが、英語学習にとっても前向きに取り組むことができる。ペアワーク、音読、意見交換等の活動にも主体的に取り組み、自分の考えや思いを相手に伝えようとする積極的な姿勢が見られる。

- 6 科目/単元名 コミュニケーション英語 I / chapter4 るつばからモザイクへ
 7 使用教材 Jr. Effective (エスト出版 副教材)
 8 単元の目標

アメリカ合衆国の過去と現在の移民の在り方の違いについて理解する。また、本文中のキーワードを用いて英文の内容をまとめ、相手に伝えることができる。本文の発展的な問いに対し、自分の意見を持ち、グループで共有し、ペアの相手に伝えることができる。

9 指導計画

指導内容	配当時間
<p>【A】「インプット」に重点を置いた授業 ①Warm-up→②Pre-Listening→③内容理解(重要構文 KEY の確認、Q and A, TF 問題, 要旨の確認、問題の答え合わせ)、読みの確認</p>	1 時間
<p>【B】「定着 (インテイク) からアウトプット」に重点を置いた授業 ① Warm-up→④ Post-Listening + 口頭サマリー→⑤ 音読活動(インテイク)→⑥ Error Correction(表現面の確認)+Q and A(内容面の確認)→⑦ Retelling (発表) or ⑧ Interaction (やり取り) (アウトプット) (まとめの writing)</p>	1 時間 (本時)
<p>【構成、留意点とねらい】 上記の【A】【B】の2時間で1 chapter を基本とする。 ①は毎時間帯活動として行う。①は毎時間、即興のスピーチややり取りを行う。 【A】「インプット」に主に重点を置く。 ②③は本文内容や言語材料を理解するインプット活動。②問いを与え閉本でのリスニング(pre-listening)+本文確認→③文構造(KEY の確認)、内容の深い理解+本文の右側の問題の答え合わせ。 【B】「定着 (インテイク) からアウトプット」に主に重点を置く。 ④はキーワードを見ながらリスニング(post-listening)し、口頭で要約する。あえて難しいタスクを課し、本時のゴールである Retelling のために、何が足りていないのかの課題と現時点での Output 力を認識する (メタ認知)。そして、Retelling に向けてのその後の活動の意識づけを行う。→⑤は本文内容と言語材料を取り込むインテイク活動 (音声、記憶、文字の負荷を増やし、様々な音読活動を通して、アウトプットに向けたトレーニングを行う) →⑥⑦はアウトプット活動。⑥ Error Correction で表現面、Q&A で内容面の確認を行い、Retelling に向けた英文の産出の橋渡し活動をする。英文の難易度も高いため、Q and A を</p>	2 時間

行い、ペアの相手に質問に答えながら本文の内容を一度整理する。また、Retelling の負荷を軽減する。→⑦本文内容についてキーワードを用いて自分の言葉で相手に伝える。→⑧は本文内容に関する発展的な問いを提示し、ペアの相手とやり取りを行う。また、ペアの相手を変えながら、「必ず賛成する」、「必ず反対する」「〇〇の表現を用いる」といった条件をつけ加えて活動をする。→リテリングや自分の意見をライティングする。

10 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

ア ペアワークに積極的に取り組む。相手の意見を聞きながら情報や自分の意見を積極的に発信する。

イ 本文の内容や聞いた内容について、概要をまとめて相手に伝えることができる。

ウ 本文内容のテーマであるアメリカ合衆国の現在と過去の移民の在り方の違い理解している。

エ 既習の表現、構文を用いて、概要をまとめたり自分の考えを伝えたりする表現を理解している。

(2) 評価規準

①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	②外国語表現の能力	③外国語理解の能力	④言語や文化についての知識・理解
ペアワークに積極的に取り組んでいる。相手の意見を聞きながら情報や、自分の意見を積極的に発信している。	本文の内容や聞いた内容について、概要をまとめて、相手に伝えることができる。	本文内容のテーマであるアメリカ合衆国の現在と過去の移民の在り方の違いを理解している。	既習の表現、構文を用いて、概要をまとめたり自分の考えを伝えたりする表現を理解している。

11 本時の展開

時間	指導過程	生徒の学習活動	教師の活動及び指導上の留意点	主な評価の観点	評価方法
12分	小テスト	・小テストを受ける。	・小テストの配布		小テスト
5分	Warm-up 帯活動	・MetaMoJi に自分の回答を書く。 ・与えられたテーマに基づいて即興のスピーチを行う。	・既習の文法表現の入ったテーマを与える。 ・例を示す。雰囲気や和らげる。	ペアワークに積極的に取り組んでいる。 (①)	活動の観察
5分	Post-Listening & Speaking	・リスニングをしながら、MetaMoJi ワークシートに内容を整理する。 ・ペアの相手に口頭でサマリーを行う。	・リスニングを通して、内容を思い出させる。 ・キーワードを見ながらリスニングをし、内容をペアの相手に伝える。ここではあえて難しい課題に挑戦させ足りない力を認識させる。	前回学習した本文内容を理解しているか (①) 内容を積極的に伝えようとしている。(①)	活動の観察
10分	Reading aloud (Intake)	・様々な音読を通して、言語材料、本文内容の	・様々な音読活動により、学習した言語材料と本文	前回学習した本文内容の概	活動の観

		<p>定着を図る。</p> <p>Listen & Repeat</p> <p>個人 (× 2)</p> <p>チェンジ音読 (ペア)</p> <p>ブランク音読</p>	<p>内容の内在化を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> フレーズ毎→文毎→記憶が必要となる音読、と徐々に負荷がかかるようにバリエーションをつける。 	<p>要と言語材料を理解し、定着につなげているか。</p> <p>(①、③)</p>	察
12分	<p>Error Correction</p> <p>(表現の確認)</p> <p>Q and A</p> <p>(内容の確認)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本文の文法面での間違いを MetaMoJi ワークシートから探し、印をつける。 閉本で Q and A を行う。 ペアで確認する。 全体で確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文で扱われている KEY の部分を中心に出题する。個々の MetaMoJi 上で答え合わせをし、また、ヒントを与える。 教科書を閉本させ、Q and A を行う。本文内容を整理し、文で答えることを意識させる。 	<p>文法面での理解ができているか。(②)</p> <p>本文内容の質問に答えることができ内容面の理解ができてきているか。</p> <p>(②)</p>	活動の観察
20分	<p>Output①</p> <p>Retelling</p> <p>発表</p> <p>Output②</p> <p>Interaction</p> <p>やり取り</p>	<ul style="list-style-type: none"> キーワードを見て1分間考える。 キーワードを用いて、ペアの相手に本文内容を伝える。 ペアを変えて2回行う。 全体で発表 一人ひとりが MetaMoJi に録音する。 MetaMoJi 上で6グループに分かれ、問いに対して意見やキーワードをグループごとに書き込む。 自分と違うグループの相手に自分の意見を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> モデルを示す。 ペアを変えて2回行う。2回目の前に表現面、内容面のフィードバックを行い2回目は内容面、表現面を深めた Retelling を促す。 全体で共有する。 Retelling を吹き込ませる。 6グループに分ける。 “What are some benefits of having an ethnically diverse country?” という発展的な問いを与える。 ペアで意見を共有する。 	<p>本文の内容をペアに伝えることができているか。(①、②)</p> <p>授業後に、MetaMoJi の確認</p>	活動の観察
1分	<p>まとめ</p> <p>宿題の指示</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本日のまとめ 次回の宿題の指示 次の chapter のリーディングの予習 	<ul style="list-style-type: none"> 本日のまとめ 次の chapter のリーディングの予習の指示を行う。 		次回の宿題の確認

【本授業について】

Warm-up の活動は毎時間行うこととし、既習の文法事項を含むテーマに対して、ペアの相手にスピーチを

行う。今回は英語表現 I の授業で学習済みである仮定法をテーマとして設定する。また、英語を口から出すことに慣れさせる。

前時の授業までに、本文内容の理解、右側の問題の答え合わせが終わっている。副教材であるため、入試問題の英文ではあるが、本単元のテーマである「アメリカの移民の在り方における過去と現在の移り変わり、るつぽからモザイクへ」という題材を生かし、既習の内容を本文中のキーワードを使って相手に伝えることを一つの出口として設定した。そして、個々に **MetaMoJi** に録音し、授業後の振り返りとして使用できるようにする。また、題材に関する発展的な問いを与え、物事の利点についてグループで意見を出し深い学びへとつながるようにする。

【本授業における MetaMoJi の使用場面】

今回は以下のようにすべての場面において **MetaMoJi** を使用する。

- ・小テスト…答えの提示。(一斉学習ページ)
- ・Warm-up…個々の意見の集約。(クラス学習ページ、書く)
- ・Post-listening& Speaking…選択肢の作成、移動。(個別学習ページ、付箋機能、動かす)
- ・Reading aloud…本文の提示。(一斉学習ページ)
- ・Error Correction…本文の提示。(個別学習ページ、書く)
- ・Q and A…Q と A の提示。答えの提示。(個別学習ページ、めくり機能)
- ・Retelling…キーワードの提示。個々の音声の録音。(個別学習ページ、録音機能)
- ・Interaction…個々の意見の共有。(グループ学習ページ、書く)

【英語授業における MetaMoJi の活用】

- ・発問に対して、視覚的に生徒全員の答えを確認できるため、発言をためらう生徒の考えも授業の中に取り入れやすい。
- ・ページを拡大、縮小しながら文字を手書き、タイピングで自由に書きこむことができる。
- ・グループに分け、**MetaMoJi** 上でグループワークができ、意見を共有できる。
- ・個々の意見の集約が容易にできる。また、同ページを全員でリアルタイムに編集できる。本文のキーワードを生徒自身が挙げて共有し、リテリングや要約を話す、書く活動ができる。
- ・賛成反対を問うようなテーマを与える場合においては、キーワードや意見を出させ全体で共有し、それらを用いてスピーキングやライティングができそうである。
- ・スピーキングの評価(パフォーマンステスト)に使用できる。録音機能を用いて音声を個々に吹き込むことができるため、音読や、スピーキングの個々のチェックや評価ができる。今後パフォーマンステストにも生かすことができるのではないかと。

意見の集約や共有、スピーキング・ライティングの評価や振り返りの活動、フィードバックに生かすことができる。今回は **MetaMoJi** を全ての場面で使用したが、今後はどの場面で **MetaMoJi** を使用することが生徒の英語力を伸ばす上で一番良いかを検討したい。